

6月10日にロサンゼルス国際空港から出国してニュージーランドへと向かった。今回の海外研修で1番長い期間を設けていたアメリカ合衆国を離れることに少し寂しさがあったが、今後の新しい場所での学びに心を膨らませて飛行機内を過ごしていた。

ニュージーランドに入国するにあたって NZeTA と NZTD の提出が必要で、NZTD は前日から申告可能であるが、検疫品目内の食べ物の申告は頭にあったものの規制品目としてお土産は700NZD 以内ということを知らず、物価の高いアメリカで買い物をしてしまったことを後悔した。調べたところ700NZD を超えてからは15%の課税の可能性があるとなり血の気が引き、飛行機はそのことを考えないように入国審査の質問のみ考える等現実逃避をしていた。



いざ空港について入国審査を行う時には日本人は電子ゲートで通過でき、質問がなくて拍子抜けした。検疫品目と規制品目を申請した際には「食べ物の種類」や「何で700NZD 以上超えていると思うのか」と質問されたが、「ディズニーのお土産が高いと思う」と言う「そうだよね、仕方ないよね」「日本人はあんまり悪いことをしないと思う」と笑って受けれてもらい、日本人の信用の高さから課税なく入国出来た。今後ニュージーランドへ渡航予定の人には強く知らせようと思った初日である。

個別研修では Apples Childcare & Learning Centre はアメリカ研修中に許可をいただいていたものの、直前になって管理者がバケーションで不在のため受け入れることが難しいと連絡が入り、どうにか受け入れていただけないか交渉したものの難しいとのことで Tiny Voices Herne Bay のみ日数を増やして研修をさせていただいた。Tiny Voices Herne Bay は2歳～5歳までの様々な国籍のご家庭のお子様が通われていた。言葉や肌の色、考えの違いがあっても小さい頃から偏見なく一緒に育っている様子が見られた。中にはADHDの診断を受けていてご自宅で理解されずに保護者が育児に疲れているという話を聞いたり、その子自体も以前は手が出ることが多かったこと等教えていただいた。

Voices Herne Bay はレッジョ エミリア アプローチを取り入れており、大人は子どもたちが自らの興味や好奇心に基づいて学びを深めることを促す環境作りを行っていた。誕生日会の様子もを見せていただいたが大人が丁寧に関わることで離席をする子が少なく、誕生日を祝う気持ちが高まっている印象だった。

Tiny Voices Herne Bay は私が訪問することを快く受け入れていただき、一緒に動物園遠足にも連れて行っていただいた。ニュージーランドエリアではニュージーランドの国鳥のキーウィを見ることが出来た。のびのびと生きる動物の様子を子どもたちが観察して興味を示し、次の日にアトリエで感じたものを表出する姿が印象的であった。学びは報告書にて記載する。



休みはオークランド博物館へ行った。マオリの文化やオークランドに住む動植物について等を感じた。マオリ体験として実際のハカやマオリの歌、楽器を見てきたが、とても神聖な儀式で圧倒された。私は北海道に住んでいてアイヌ文化に触れることがあるのだが、ニュージーランドのマオリの歌等はアイヌ文化に似たような感覚になる不思議な体験であった。

